

【 アンケート結果の分析 】

設問 1, 2, 3, 5 (主として講義の進め方に関する質問):

第 5 週アンケートと同様, 90% 程度以上の受講生が肯定的な回答

(「はい」 or 「どちらかといえばはい」)を選んだ。

強いて言えば, 「授業内容の説明は分かりやすかったか」という

質問に対する肯定的な意見の割合が, 第 5 週より少し減った。

設問 4 「授業の進み方や内容が適切か」:

「適切」と答えた受講生が 69%, 「速い・多い」と答えた受講生が計 25%。

一方, 「遅い・少ない」と答えた受講生が 1 人あらわれた。

設問 6 「質問の機会をつくり, 答えているか」と,

設問 7 「教員の熱意を感じるか」:

どちらの質問に対しても 100% の受講生が肯定的な回答をした。

設問 8 と設問 10 (受講生自身の講義への取組み方に関する質問):

ほぼ例年通り。どの授業でも, 受講生は教員には優しく自分には厳しい傾向がある。

それでも, 「意欲的に取り組んだか」と「学問的興味・関心が高まったか」という

設問に対しては肯定的な回答が 7 割程度以上であった。

設問 9 「予習や復習をしていたか」:

第 5 週アンケートでは「はい」あるいは「どちらかというとはい」が計 79%

だったのに対し, 第 15 週アンケートではそれが 50% に減り, 「どちらともいえない」

が全体の 44% に増えた。

設問 11 「新しい知識や考え方を身につけたか」:

81% の受講生が肯定的な回答をした。

設問 13 「任意提出の宿題は授業改善に効果があったか」:

75% の受講生が肯定的な回答をした。

次年度以降の授業の改善ポイント:

宿題をグループ課題とした狙いは 2 つあった。

(1) 仲間がいるし責任もあるので, 途中で脱落する学生が減ることを期待した。

(2) 全員がちょっとずつでも予習復習に時間を割くようになることを期待した。

(1) に関しては, 履修登録した学生全員が最後まで出席して単位を取得したので

その意味では成功だったかと思う。しかしながら, (2) に関して, 予習復習を

しない受講生が多数いたことが第 15 週アンケートで明らかになった。

これが反省点である。

藤原担当の別の科目『基礎分子生物学』は, 高校『生物』を履修していない学生

も含む 1 年生が対象であるため, 相当量の予習復習を強制するプログラムに

なっており, 「おぼえる」ことが中心の授業であった。

これを少し大学らしい「考える」授業に変えていくことを目指したが,

その目論見通りにはなっていなかった。

次年度は, 大学の勉強というものについてももう少し丁寧に説明するとともに,

いやでも予習復習をせざるを得ない授業内容にしようと思う。

自由記述欄中で、授業改善のために特に注目したコメント：

- (1) 授業のディスカッションには、少しずつだが参加できるようになったが、最後まで先生の質問に答えることや第 15 回の講義で質問することが出来なかったことが後悔した。自分の意見にしっかりと自信を持てるようにしていきたいと思った。

>>> 自信が持てるようになるために大切なことが 2 つあります。一つ目はもちろんたくさんの知識を身につけて自分で考える習慣をすることです。でも、みんなはそこをクリアしても、やっぱり自信をもって質問できるようにはなれません。そこで二つ目、まず、とりあえず、質問することです。どんどん喋ってみることです。最初は自分が話していることの意味もよくわかっていない状態ですから、相手と話が噛み合わないだろうと思います。でも、それを何度も何度も繰り返しているうちだんだん話が通じるようになってきます。つまり質問をする練習が必要だってことです。「自信がないから発言できない」という気持ちに負けず、「自信なんかなくても発言する」ことを是非やってください。そうすれば自信は後からついてきます。第 5 週アンケートへのコメントにも似たようなことを書いてありますので、もう一回、読み直してみてください。

- (2) . . . 質問を考えたり問題を考えたりという遠回しなやり方ではなくシンプルに学習したい。 生物は単語と仕組みを理解する科目だと思うので、作るのが大変だと思うけれど単語の穴埋めプリントとかいいと思う。

>>> いや、それは違うんだな〜。「単語と仕組みを理解する」ってのは「既にわかっていること」を理解することです。大学受験まではそれでいいかも知れません。しかし、大学で本当に大切なのは未解明の問題を発見して、それを自分の力で解決できるようになることなのです。そのために最も大切なのは「論理」です。未解明の問題は、どこがどう問題なのかもわからないような形で目の前にあらわれます。問題の輪郭を論理的な言葉で的確に表すことができれば、それだけで解決への一歩を踏み出したと言えるのです。フォーラムで質問を考える。調べてそれに答えを書く...という体験をした人たちは、そのような論理性、問題発見能力、課題解決能力をちょっとだけ磨く練習になったはずです。

「単語の穴埋めプリント」は、私にとってはむしろ簡単です。記述式の問題を採点することの方がよほど大変な作業です。受講生が多い授業では、穴埋め式の問題に逃げたくなります(笑)。でも、「穴埋め問題」では、大学で学ぶべき最も重要なことを学べないのですよ。「生物学とは、単語と仕組みを暗記して穴埋め問題で対処できる学問だ」という認識のまま卒業研究に突入すると大変なことになります(笑)。